

カンボジア結核対策スタディーツアー2019 参加者募集！

複十字シール募金による結核対策国際協力事業をこの目で見、肌で感じたい方大募集！
詳細を次に記します。ご参照ください。

【応募条件】

- ① 複十字シール募金運動の広報・支援活動、また婦人会活動に積極的に参加・支援いただく意志のある方。
- ② スタディーツアーに参加する体力のある方。

【日程（案）】

令和元年12月3日（火）日本発→プノンペン着～12月6日（金）プノンペン発
→12月7日（土）日本着

※12月2日（月）は成田空港近くのホテルに前泊

【視察先（案）】

シール募金の支援により活動しているカンボジア結核予防会事務所、縫製工場、プノンペン市郊外のヘルスセンター、村落DOTS（直接服薬確認療法）の様子、日本式健診・検査センター等で行っている結核対策の実際。※2018年ツアー内容（機関紙『複十字』385号参照）

【参加費】

下記の旅費はご自身でご負担願います。

- ・ 自宅から成田/羽田空港までの往復の移動費用全額。（国内旅費）
- ・ 25万円（海外でかかる費用）—ただし、結核予防会から一人当たり5万円を補助します。

【募集人数】 5名

【応募締切】 令和元年10月1日（火）

【応募方法（お問合せ先）】

参加ご希望の方は下記までご連絡願います。応募書類、その他必要な提出物についてご説明します。

公益財団法人結核予防会 事業部普及広報課 辻 知子

メール：fujinkai@jatahq.org

電話：03-3292-9288

FAX：03-9292-9208

以上

結核予防婦人会カンボジアスタディツアー 第10回目を迎えて

結核予防会結核研究所
対策支援部副部長（兼）保健看護学科長

永田 容子

2018年12月3日（月）～12月8日（土）、7名（奈良県2名、群馬県2名、宮崎県1名、結核予防会（経理課）1名、結核研究所（団長）1名）が参加した。

概要

結核予防婦人会はカンボジアにTシャツを300枚10年間送る活動を行っている。このスタディツアーのメイン行事としてカンボジア結核予防会（CATA:カタ）に日本から結核予防婦人会シール募金の一部1,000\$を寄付贈呈した。CATAが12カ所の企業に行っている縫製工場の結核を含む健康管理システム、国立結核センターのクリニック外来や入院病棟の見学、2014年から2年間結核診断強化プロジェクトが行われていたピアレン医療圏郡の州病院と2カ所のヘルスセンター（保健所）の見学、国立保健医療科学大学内の健診・検査センター（新）の見学を行った。富裕層を対象に高度な血液検査とその結果が同日にわかる人間ドック、日系企業従業員を対象とした集団検診事業の展開を今後に向けて準備中であった。

カンボジアの結核

カンボジアの結核罹患率は326（人口10万人対）であり、アジアではフィリピン、北朝鮮、ミャンマーに次いで4番目に高い。カンボジアは25州からなり102医療圏郡、その下に1,165カ所のヘルスセンターがある。1つの村は人口1万人程で村のヘルスワーカーがヘルスセンターに抗結核薬を取りに行き、結核患者へのDOTSが行われている。

参加した7名の立場はちがうもののそれぞれ新鮮な目線で視察先では積極的に質問し、カンボジアの結核対策の取り組みを知ることができた。

募金活動の意義

参加者の婦人会長さんは、ご自分の県で1軒1軒の家庭を回り、100円～200円の募金活動を行うときに、どのようにこのお金が使われているのか質問されても具体的に伝えられなかった経験から、自分の目で見て聞きたいと参加された。視察先に自分たちの募金収集の苦勞を説明され、どのように活用されているか何度

も尋ねられていた。日本の募金活動は、一般の家庭の主婦の方々から少しずつ集められた貴重な募金であることをお伝えされたかったのだと思う。しかし、カンボジアの国内では富裕層であっても募金をする考えはないことに、改めて文化の違いを目の当たりにした。すべての日程を通してカンボジアのTシャツ（写真）を全員で着用し、複十字シール募金の活性化につなげていくことを確認した。おそろいのTシャツを着用することの意義は、カンボジアで高貴な色とされる白で思いっきり目立つこと、TBの活動ですかと声をかけてもらいやすい、はぐれても探しやすい、意識統一、気合も入る、などである。皆さんの協力のもと団長としての役割と責任の重さを痛感した。

現地での体験を今後に活かす

この経験を通して、募金の一部がどのように国際協力に活かされているか、自分の目で見て聞いたこと、感じたこと、その意味や意義を身近な人に伝えていくことができる。私は結核研究所で外国人相談室も担当しており、帰国相談を受けることが多い。カンボジアでは公衆衛生医療区分や結核患者の照会システムが制度化されており、今後は日本で結核発病したカンボジア人が帰国する際においても、継続治療につなぐ支援に活かせると思われる。

一人ひとりとは小さな力ではあるが、婦人会という大きな組織になれば、アジアの近隣諸国の婦人会の方々と手をつなげるかもしれない。ネパール⇒ミャンマー⇒カンボジアとつながってきたスタディツアー、次はどの国に広がっていくのか、婦人会のグローバルな視点にわくわくしてくる。🐼



CATAにて



寄付金贈呈